

令和7年度 第2回 千葉市自立支援協議会 運営事務局会議 議事録

開催日時	令和7年7月24日(木) 14時00分 ~ 16時00分	
開催場所	緑保健福祉センター 2階 大会議室	
出席者	<委員>	
	伊藤 佳世子 氏 (中央区障害者基幹相談支援センター 管理者)	
	田口 洋平 氏 (花見川区障害者基幹相談支援センター 管理者)	
	井出 孝子 氏 (稲毛区障害者基幹相談支援センター 管理者)	
	藤本 真由美 氏 (美浜区障害者基幹相談支援センター 管理者)	
	伊藤 正彦 氏 (若葉区障害者基幹相談支援センター 管理者)	
	武内 康浩 氏 (千葉れんげサービス 管理者)	
	高柳 佳弘 氏 (メープルリーフ 運営管理者)	
	藤尾 健二 氏 (千葉障害者就業支援キャリアセンター センター長)	
	武藤 郁子 氏 (千葉市引きこもり地域支援センター 事業責任者)	
	鈴木 信知 氏 (千葉市社会福祉協議会 地域福祉推進課 地域福祉推進班長)	
	仲村 美緒 氏 (千葉市発達障害者支援センター 所長)	
	奥澤 清城 氏 (稲毛区高齢障害支援課 障害支援班主査)	
	米元 俊晴 氏 (緑区高齢障害支援課 障害支援班主査)	
	荒井 拓 氏 (障害福祉サービス課 指導班 主査)	
	木村 直行 氏 (障害福祉サービス課 施設支援班 主査)	
	手嶋 広記 氏 (障害福祉サービス課 地域支援班 主査)	
	<オブザーバー>	
	北島 岳彦 氏 (障害福祉サービス課 地域支援班 主査)	
	吉田 美穂 (障害福祉サービス課 地域支援班)	
	<事務局・委員>	
	由良 亮人 氏 (緑区障害者基幹相談支援センター 管理者)	
	<欠席>	
	末永 慎介 氏 (鎌取相談支援センター 施設長)	
	垂水 成人 氏 (障害者自立支援課 企画班 主査)	
	田島 淳也 氏 (障害者自立支援課 給付班 主査)	
	山口 雅也 氏 (精神保健福祉課 通報対策班 主査)	
議題	議題1 :【自立支援協議会】各区基幹より 全体会については吉田氏より 議題2 :【地域生活支援拠点等】花見川区基幹 田口氏、稲毛区基幹 井出氏 議題3 :【医療的ケア児専門部会】美浜区基幹 藤本氏 議題4 :【行動障害を考える会】緑区基幹 由良 議題5 :【精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業について】 議題6 :【就労部会】千葉市キャリアセンター 藤尾氏 議題7 :【県基幹連絡会・中核地域生活支援センター連絡協議会】緑区基幹 由良 その他 :	
議事	議題1【報告】自立支援協議会 (1) 各区地域部会の報告 (資料データ事前配布) 中央区基幹 伊藤氏 介護保険の状況についてあんしんケアセンターから、ケアマネジャー不足が顕著になってしまっており要介護の方は探せるが要支援の方は2ヶ月程度待つ状況であり、美浜区と稲毛区でもケアマネジャーが少なく中央区に集まっている状況であると報告がさ	資料配布

れた。ヘルパー派遣については生活援助の報酬が下がったことで特に要支援に関して見つかりにくく、駐車場や駐輪場がないと見つからない状況である。障害分野でもヘルパー不足が特に土日に顕著になっている。また、就労継続支援B型事業所が増えているが定員を満たすために無料の昼食や送迎などのサービスが必要な状況である。また、福祉まるごとサポートセンターから参加支援事業が開始されたこと、相談件数が増加していること、50歳の団塊ジュニア世代の障害サービス利用者が多く8050問題が増え気味であることなどが共有された。

花見川区基幹 田口氏

移動支援について議題が挙がり、なり手が少なくなっており、事業所を探しても見つからないという意見があった。研修制度の問題や報酬単価の安さが原因として挙げられた。また、就労継続支援B型についての話題では、A型が減少傾向にあり、A型であった事業所がB型に変わる際に利用者への説明がないケースがあることや、県立千葉特別支援学校からB型のニーズが高くなっているという話があった。B型のあり方として、引きこもりの方が社会復帰する道を担っているという意見も共有された。

稲毛区基幹 井出氏

前半に運営事務局会議やネットワーク会議の報告、児童系事業所意見交換会の報告を行った。学校が困った時の相談先としての機能について質疑があり、学校側からは体制が整ってきたという印象があるという意見が出された。また、相談支援事業所から2名の相談員を招いて、移動支援の課題、グループホーム入居に関する問題（日中支援先との距離や送迎問題）、引っ越しや住所変更手続きなど相談員のシャドーワークについて生の声をきき、シャドーワークの多さについての意見交換をしている。具体的なケースとして、感染症に敏感で外出できない児のケースや、グループホームに入居している知的・精神障害のある女性が妊娠したケースなどが共有され、委員からの助言が行われた。

若葉区基幹 伊藤氏

最初に参加者から各相談機関の対応状況を聞き、その後基幹から各種会議の報告を行った。中央区と若葉区合同で行った児童の意見交換会では、植草学園大学の先生を講師に招き、子どもに対する捉え方（リフレーミング）について学び、大人の対応の仕方で子どもが変わっていくという話があった。また、ヘルパーに関する話題では、移動支援や行動援護のヘルパー不足、特に長時間の移動支援が見つかりにくい状況が報告された。小さい子どもの幼稚園や保育園への登園について、車椅子の母親の送迎が難しいケースでは、育児支援としてヘルパーが関わっている例が紹介された。また、親子ともに障害があり、母親が急遽入院することになった際に基幹と高齢障害支援課、援護課などが連携してショートステイにつないだ事例が報告された。

美浜区基幹 藤本氏

運営事務局会議などの報告後、委員から近況が報告された。働く知的障害者の余暇の場所の少なさ、パラスポーツコンシェルジュの活用事例、美浜区の外国人率の高さによる療育での対応問題（日本語があまり上手に話せない方の対応、文化の違いによるトラブル）などが話題に上がった。また、人材不足全般の問題として、ヘルパーや民生委員が足りていない状況が報告された。移動支援については、高齢のヘルパーが若い利用者に対応する際の体力的な問題やマッチングの難しさが指摘された。メインテーマとして「働く知的障害の方の課題」について話し合い、お金の使い方、友人関係、趣味、性に関する問題、余暇活動の少なさなどの課題が挙げられた。次回の地域部会では、挙がった課題に当てはまる事例の検討を行う予定である。

緑区基幹 由良

各部会等の状況報告を行った。今回の地域部会では、基幹相談支援センターの事業計画に基づき、地域のアセスメントを実施した。緑区は自然に恵まれ子育て世代が住みやすい一方で、JR・京成の駅がある都市部に人口が集中し、郊外の過疎化が進んで地域格差が生じているという意見が出された。地域全体を俯瞰するために緑区ガイドマップを活用し、社会資源とハザードマップ、交通マップを落とし込む作業を参加者全員で行った。その結果、公共交通機関の縮小や未整備区域があり、移動手段の有無によって福祉サービスの利用に支障が出ているという課題が明らかになった。福祉有償運送について勉強する必要性も新たな課題として見つかり、今後さらに課題の深掘りを進めていくことになった。

【地域部会報告に関する質疑応答】

メープルリーフ 高柳氏

中央区のヘルパーの駐車場問題について、令和7年4月24日に「訪問看護等に使用する車両の駐車許可に関する周知について」が出ており、一定の条件を満たせば道路上に車を置くことができる許可証の制度が始まっている。また、緑区の福祉有償運送に関して、NPOと社会福祉法人しか登録できないという制約があるため、「道路運送法における許可または登録を要しない運送ガイドライン」等を活用する方法がある。

中央区基幹 伊藤氏

補足情報として、中央区の千葉駅付近は駐車場が高く、マンションが多いためヘルパーが入るのが難しい状況である。

千葉市社会福祉協議会 鈴木氏

福祉まるごとサポートセンターの参加支援事業では、既存の支援だけでは対応が難しい、様々な理由により人や社会とのつながりを持てない方々に対し、その方のニーズに応じて安心して過ごせる場を提供できるよう、市域全体で参加の場を幅広く探しているところである。委員の皆さんにも、参加の場に関する情報提供についてご協力願いたい。

キャリアセンター 藤尾氏

就労継続支援A型事業所の解雇者数が過去最大となっており、全国的にA型がなくなるとB型に移行していく状況があるため、市としても注視する必要があるのではないか。

障害福祉サービス課施設支援班 木村氏

千葉市ではA型は横ばいだがB型は増加傾向にあり、4月から7月において7カ所の新規指定があった。

(2) 自立支援協議会全体会の事前共有事項・・・[当日配布資料]

障害福祉サービス課地域支援班 吉田氏

8月26日に開催予定の自立支援協議会全体会に向けた事前共有事項について説明をする。まず、セルフプランの受理状況調査について、昨年度の全体会でセルフプランの提出理由に関する質問があった。現状では「セルフプランの作成を希望しているため」と「相談支援事業所を探したが見つからなかったため」の2つの選択肢しかなく、実態が把握しづらいため、令和8年4月からチェック項目を修正する予定である。次に、障害者基幹相談支援センターの運営評価について、関係機関との連携数が区によって大きな開きがあることを指摘されたため、令和7年4月からカウントの仕方を各区基幹相談支援センター間で統一するよう対応している。

稻毛区高齢障害支援課 奥澤主査

窓口での実態として、セルフプランの意味を理解していない利用者や、事業所の助言を受けながら書いている方もいる。

	<p>(1) 地域生活支援拠点 C O 会議報告 花見川区基幹 田口氏 5月に開催した地域生活支援拠点研修「地域移行について～精神科病院との連携について～」の振り返りを行っている。また、6月27日「発達障害・自閉症の理解と対応～行動障害を防ぐために～」、7月31日に予定している「医療観察制度勉強会」について確認を行った。 昨年度の「強度行動障害調査に係るアンケート報告書」において、緊急性の高い回答内容については、各区の地域生活拠点コーディネーターが情報を共有し、対象者に連絡して状況を確認している。結果として、多くの対象者はすでに計画相談員の支援を受けており、緊急性を要しないと判断している。なお、連絡が取れていない対象者に対しては、引き続き対応していく予定としている。</p> <p>(2) 医療観察制度勉強会について・・・[資料3] 稲毛区基幹 井出氏 7月31日にオンラインで医療観察制度勉強会を開催する。千葉保護観察所社会復帰調整官と協議を重ね、事例を元に講義して頂くこととなっている。出席者を広く募るためにグループホーム連絡協議会にも協力して頂くこととなった。</p>
議題3【報告】医療的ケア児専門部会	資料なし
美浜区基幹 藤本氏 医療的ケア児専門部会について6月にワーキング、7月に検討会を実施した。6月のワーキングでは、幼保指導課から医療的ケア児受け入れのルールや運用について説明があり、公立保育所、公立認定こども園、民間保育園の3事業所から取り組みについて共有があった。課題として、多くの子どもが保育園に通えるようになってきているが、まだ通えていない子どもが多いこと、6ヶ月間入院せず自宅で安定して過ごせることが入所条件として求められるハードルの高さ、呼吸器を使用する子どもの受け入れが難しいことなどが挙げられた。7月の検討会では、防災対策課から医療的ケア児の避難訓練について説明があり、9都県市合同防災訓練の枠組みの中で各区1カ所ずつ重点避難訓練を実施する予定であることが報告された。また、医療的ケア児の短期入所ニーズに関するアンケートについて、和洋女子大学の高木先生が親の会や医ケア部会などの関係者の意見を集約してアンケートを作成中で、秋に実施予定である。	
議題4【報告】行動障害を考える会	資料なし
(1) 研修について 緑区基幹 由良 6月27日に千葉市地域生活支援拠点研修と行動障害を考える会の共同開催で、千葉市発達障害者支援センターの仲村氏による「発達障害自閉症の理解と対応～強度行動障害を防ぐために～」というテーマの研修を実施した。申込は128名、当日参加は99名と多くの参加があり、昨年度も同様の内容で200名近い参加があったことから、非常にニーズの高い研修となっている。	
(2) 強度行動障害アンケートについて 緑区基幹 由良 千葉市強度行動障害アンケート調査の活用について、昨年度に実施したアンケートで「できるだけ早く家族と離れ、グループホームや施設入所を希望する」との回答が35件あった。各区の内訳は、中央区7件(回答45件)、花見川区88(回答75件)、稲毛区7件(回答50件)、若葉区4件(回答31件)、美浜区5件(回答21件)、緑区4件(回答29件)となっている。これらの方々に連絡を取った結果、	

既に計画相談が支援に入っている等の状況で緊急性が高いという状況ではなかったが、一方で連絡がつかなかつた方や、アンケートに回答をされていない方への働きかけについて検討が必要であるとの認識を共有している。	
議題 5 【報告】千葉市精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム推進構築事業について	資料なし
担当者欠席の為、報告なし。	
議題 6 【報告】就労部会	資料 4、5
<p>(1) 第1回就労移行支援事業所意見交換会について・・・[資料4]</p> <p>キャリアセンター 藤尾氏</p> <p>7月9日に開催された就労部会では、オブザーバーとして千葉県就労事業振興センターのセンター長を招き、就労継続支援事業所の情報管理について議論している。優先調達を行う際に適切な事業所が見つけにくいという課題が共有され、解決策として、チャレンジド info 千葉の情報を活用していくこととなった。千葉市から事業所に対して、適切に登録や情報更新を行うよう働きかけていくことが確認されている。また、ワムネットについても情報公開ツールとして利用できるよう整備を進めていくよう提案があった。9月24日に予定されている就労継続支援A型、B型事業所の意見交換会でお伝えしていく。併せて、センター長から施設外就労の適正価格についてお話し頂くこととしている。</p>	
<p>(2) 第1回千葉市自立支援協議会就労部会・・・[資料5]</p> <p>キャリアセンター 藤尾氏</p> <p>7月29日に就労選択支援にかかる意見交換会を開催し、就労選択支援の実施を表明している3事業所を中心に、具体的な事業の進め方を検討する予定。3事業所以外の事業所はオブザーバーとして参加する。</p> <p>就労選択支援事業の目的の一つとして厚労省が挙げていた「地域のアセスメント力向上」に繋がるよう、全ての就労移行支援事業所が就労選択支援の指定を取ることを目指したい。</p> <p>特別支援学校における就労選択支援事業利用については、利用者の負担や卒業までの期間など課題が多くあるため検討が必要であるとの意見が出ている。</p> <p>障害福祉サービス課障害支援班 木村主査</p> <p>特別支援学校における就労選択支援利用については、千葉県立特別支援学校や千葉市立養護学校と情報共有しながら進めている。これまで多くのケースで、就労移行支援事業所がボランティアで就労アセスメントを行っていたが、今年度については、就労選択支援事業所として指定を受けた事業所が就労アセスメントを実施する場合は、就労選択支援として実施し、指定を受けていない事業所が行う場合は、従来通りの方法で就労アセスメントを実施することを検討している。また、今年度は、特別支援学校だけでなく発達障害者支援センターなどの支援機関が、利用者を支援して就労継続支援B型につなぐ場合においては、就労選択支援の利用に限定しないことも検討している。</p>	
議題 7 【報告】県基幹連絡会・中核連協	資料なし
緑区基幹 由良	
千葉県基幹相談支援センターの連絡会について報告する。千葉県内には49の基幹相談支援センターがあり、協力体制強化と関係機関との連携および相談支援体制の構築のために、千葉県の障害福祉事業課地域生活支援班が主体となって設置されている。6月16日に連絡会の総会が行われ、昨年度の年度報告と今年度の活動計画、基幹相談支援センターのあり方等について検討された。	

<p>その他</p>	<p>資料 6～9</p>
	<p>(1) 障害者基幹相談支援センター公募結果について【報告】・・・[資料 6]</p> <p>障害福祉サービス課地域支援班 北島主査</p> <p>現在の委託期間が令和2年10月から令和7年9月までの5年間であり、次の5年間の委託法人について公募を行った結果、中央区、稲毛区、若葉区、緑区については現在の法人と同じ法人に決定し、花見川区はりべるたす、美浜区は千葉重症児・者を守る会に決定した。電話番号については9月の次回運営事務局会議でお知らせする予定である。</p>
	<p>(2) 各区児童系意見交換会の実施について【報告】・・・[資料 7]</p> <p>稲毛区基幹 井出氏</p> <p>稲毛区では6月18日に、児童意見交換会を実施し、「学校と児童通所事業所との連携」について意見交換を行った。グループディスカッションでは、学校との連携が難しく、連携を取ろうとしても断られるという意見が多く出ていた。また、こどもに関する相談機関として、こども発達相談室や福祉まるごとサポートセンター、基幹相談支援センターなど数多くの相談先がある一方で、保護者がどこに何を相談したらよいかわからないという声もあり、様々な相談機関を整理したガイドブックがあるとよいという意見があがっている。</p> <p>障害福祉サービス課指導班 荒井主査</p> <p>学校との連携の課題は以前から出ており、昨年から学校管理職（校長、教頭）及び支援コーディネーター向けの研修で障害や福祉について理解して頂けるよう周知を進めている。今年度は学校管理者研修で障害のある児童の通所施設（放課後等デイサービスや保育所等訪問）について説明を行っている。来月は支援コーディネーター向けに障害福祉サービス等の説明会を予定している。学校は営利法人の受け入れに構えている面がみられるが、少しずつ福祉業界のことを知ってもらうことで変わってくる可能性がある。また、児童の相談機関については、障害の有無に関わらず数が多い現状がある。ガイドブック等の作成については何をどこまで必要なのかを含めて持ち帰って検討したい。</p>
	<p>(3) ひきこもり地域支援センターへの愛称付けのお知らせ【報告】・・・[資料 8]</p> <p>千葉市引きこもり地域支援センター 武藤氏</p> <p>千葉市に要望していた地域支援センターをより親しみやすく利用しやすいものとするため、「ひなた」という愛称を付けることができた。これにより本人へのアプローチがしやすくなることが期待されるため、関係機関に周知をお願いしたい。</p>
	<p>(4) 移動支援及び行動援護のヘルパー不足について【協議】・・・[資料 9]</p> <p>若葉区基幹 伊藤氏</p> <p>若葉区地域部会において、ヘルパーが不足しており、移動支援や行動援護の利用を希望しても引き受ける事業所が見つからず利用に至らないとの報告があった。移動支援の場合は、身体介護なしのケースは利用が難しいという話は以前からあった。また、千葉市は行動援護の従業者が少ないなどの要因もあるが、サービスを提供する事業所から現状を伺いたいとの要望が出ており、議題に挙げさせていただいた。また、以前はガイドヘルパーの資格があり、学生等が福祉サービスに関わる入口として機能していた面があるが、今はどうなっているのかという疑問も出ており、実際に移動支援や行動援護を行っている事業者から内実をお聞きしたい。</p> <p>メープルリーフ 高柳氏</p> <p>障害福祉サービスにおける居宅介護の種類や資格要件について詳細な説明がなされた。ガイドヘルパー研修は視覚障害者、全身性障害者、知的障害者の3つの外出介護従業者養成研修を総称したもので、現在は視覚障害者については同行援護の事業</p>

	<p>者養成研修に移行し、全身性障害者外出介護と知的障害者外出介護事業者養成研修が残っていることが説明された。また、平成31年3月の障害保健福祉関係主管課長会議資料では、これらの資格要件を廃止する方向性が示されていたが、まだ完全になくなっている状況である。報酬面については、移動支援の身体介護あるいは3時間で約9,000円、身体介護なしは5,260円であり、平成24年度から令和6年度までの報酬の上昇は非常に少ないと、一方で最低賃金は1時間当たり200円以上増加しており、特に移動支援の身体介護なしでは事業所からの持ち出しが発生する状況になっている。身体介護なしの移動支援について、支援者の専門性をどこまで求めるのか。特別な技能を持つ人材を配置するのであれば、適切な報酬単価でなければ事業所は運営できない。特に、余暇を目的とした移動支援の需要が全国的に高まっているが、現状の報酬では事業所としては引き受けることが難しい。外出介護は、障害福祉サービスに戻してほしいという利用者、保護者の声を国に届けなくてはならないと思う。</p> <p>千葉れんげサービス 武内氏</p> <p>高柳氏が発言された現状について同感である。一方で、移動支援について別の視点から問題点をお伝えしたい。身体介護がある方の支援は大変だろうと思われるかもしれないが、プランとしては立てやすい。むしろ、身体介護がない方は活発な動きをされることから、その対応が難しく実はリスクが高い支援となる。様々な側面から、移動支援の全体像を協議する場があればぜひ今後も出席したい。</p> <p>障害福祉サービス課地域支援班 手嶋主査</p> <p>ガイドヘルパー研修については、要件廃止の検討状況が分かる国資料は見当たらず、検討状況は明らかでないが、国が別の研修の受講を推奨しているほか、同研修修了のみのヘルパーが通院等介助を提供した場合には減算となることもある。県の研修は、実施事業者の応募がないようで、今年度実施分は更新されておらず、おそらく研修自体がなくなっていく方向と思われること、千葉市の移動支援の単価は政令市の中でも高い方であること、地域生活支援事業の超過負担が年々増加しており、千葉市の地域生活支援事業約11億円のうち3億円以上を移動支援が占めているという財政的な課題があることが説明された。なお、移動支援に求められるサービスの質と、それに応じた報酬上の評価については整理が難しい面があるが、単価だけでなく、利用時間等のボリュームゾーンに関して調査把握し、手元のデータと照らし合わせて検証していきたい。また今後、利用者の障害特性や障害の程度、生活状況から必要になるサービス内容や時間数について、実際に支援されている事業所の皆様に意見を頂きたいと思っている。このようなデータで読み取れない情報も加味して研究したいと考えている。</p> <p>(5) インクルーシブフットボールイベント【報告】・・・[当日配布資料]</p> <p>千葉市社会福祉協議会 鈴木氏</p> <p>インクルーシブフットボールイベントについて、「アミザーデ」(ポルトガル語で友情・仲間の意味)という名称のイベントで、富山で25年以上続いているものを千葉でも開催し、今回で5回目を迎える。9月28日に開催予定で、障害のある方の参加を増やしたいという主催者の意向があり、個人でもチームでも申し込み可能である。過去4年間の参加状況では、障害のある方の参加が見込めない状況に苦慮しているため、参加者が増えるよう情報周知の協力依頼がなされた。</p>
次回予定	日時：令和7年9月25日（木） 14時00分～ 会場：稻毛保健福祉センター 大会議室